

数学科（数学研究A）学習指導案

日 時	平成 29 年 6 月 16 日（金）第 2 限		指導者	進藤 正樹		
学 級	普通科 3 年 7 組		教 室	多目的 1 教室		
単 元	第 2 章 2 次関数		教科書	数学研究 A（愛媛県立川之江高等学校）		
指 導 目 標	1 既習科目である数学 I・A における基礎を重視した事項の学習を通して、応用的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばす。		指 導 計 画	5 関数とグラフ …………… 2 時間		
	2 発展的な事項の学習を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識し、さらに理解を深める。			6 関数の最大・最小 …………… 3 時間 (本時はその 2) 7 2 次方程式、2 次不等式 …… 3 時間 8 2 次関数のグラフと x 軸の共有点 …… 3 時間		
本 時 の 指 導 過 程	主 題	関数の最大・最小		課 題	前時に指示をした問題を解く。	
	目 標	2 次関数の最大・最小に関する問題の演習を通して、既習内容を復習し、知識や解法を確認させるとともに、応用を重視した事項や発展的な事項を通して、解答作成の方法について習熟させる。				
	学 習 活 動		時 間	指 導 上 の 留 意 事 項		評 価 規 準 ・ 方 法 、 資 料 等
	導 入	1 前時の課題を解答する。		5	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に板書させ、発表させる。 2 次関数の最大・最小を考える際に必要な知識や考え方を確認する。 	【評価規準】 ○既習内容が理解できている。(知識・理解) 【評価方法】 ○発言や態度の確認
		2 本時の内容を確認する。				
展 開	1 班ごとに指示された問題を解く。 (1) 各自で考える。		20	<ul style="list-style-type: none"> 理解が伴っていない生徒に対しては、前時の課題のどの知識や考え方を利用しているのかを示す。 計算ミスに注意させる。 誰が見てもわかりやすい形の表記にまとめさせる。 	【評価規準】 ○問題を解くことや話し合いに積極的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度) ○解法をうまくまとめることができる。(数学的な技能) 【評価方法】 ○発言や態度の確認	
	2 解答を発表する。		20			<ul style="list-style-type: none"> 友人の発表を真剣に聞かせる。 必要であれば指導者が補足する。
整 理	1 本時のまとめをする。		5	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が重要なポイントを強調する。 		
	2 次時の学習内容と課題を確認する。					
備 考	I 類型 生徒数 34 名 (男子 18 名, 女子 16 名)					